

戦略提言書とは？

第2期益城町まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、第2期総合戦略)は、人口36,000人をめざす益城町人口ビジョン達成に向けて、にぎわいづくり等の方向性を示す重要なものです。これを町全体で進めていくためには、具体策についての深い議論が不可欠となります。そこで、「ましきまち戦略会議2020」を開催し、町の理想像とこれからわたしたちが取るべき戦略についてディスカッションを行い、戦略提言書として取りまとめを行いました。戦略提言書は「協働のまちづくり」の精神に基づき、戦略提言書と対をなすものとしてまちづくりを進めていけるよう、第2期総合戦略を加筆修正する際の重要な資料としても位置付けられています。

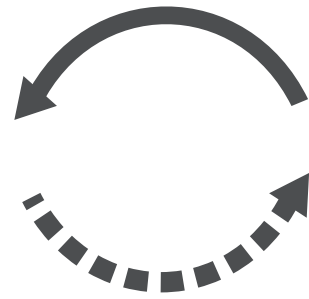
第2期総合戦略

町全体の方向性



総合戦略審議会

総合戦略への提言



方向性の提示

戦略提言書

具体的な施策案



ましきまち戦略会議2020

ましきまち戦略会議2020とは

第2期総合戦略を踏まえ、町内外で活躍されている方々と一緒に具体的な施策案をもっと考えたい、という思いから企画・開催されたものです。コンセプトは「わたしたちが、戦略を考えよう」。第2期総合戦略で示された方向性をもとに、益城町の未来に向けた取り組みについて全員が主体的に考え、アイデアを出し合い、わたしたちがやるべきことを共有することを目的としています。

第1回～第2回戦略会議の参加メンバー

町内外企業従事者/経営者・自営業者(飲食店等)/農家/団体職員(社会福祉法人、公益財団法人、NPO法人等)/学校関係者(教員等)/子育て中のお母さん/地域おこし協力隊/まちづくり協議会/大学教員/大学生/行政職員など

※各団体を代表して参加して頂いたものではありません。



第1回戦略会議(2020年1月11日)



第2回戦略会議(2020年1月25日)

戦略会議からの提言

戦略会議で出たアイデアを整理し、提言書では17の提言としてまとめています。次のページからは、それぞれの提言の具体的なアイデアを「今すぐはじめよう」「時間をかけて取り組もう(概ね5年以内に達成)」「将来チャレンジしよう」の3つの時間に分けて整理しています。

- 01 わたしたちの町のカタチを変えていこう。
- 02 阿蘇くまもと空港をもっと活用しよう。
- 03 移動に困らない町にしよう。
- 04 みんなで運動を大好きになろう。
- 05 わたしたちの町にある自然を再認識しよう。
- 06 古き良き家を活用しよう。
- 07 子どもも大人も思いっきり遊べる場所を作ろう。
- 08 「映える」町を目指そう。
- 09 とりあえず流行をフォローしてみよう。
- 10 笑顔で商売できる場所を増やそう。
- 11 わたしたちの農業をバージョンアップしよう。
- 12 国境を感じない生活を楽しもう。
- 13 大人が輝いている姿を子どもに見せよう。
- 14 幸せな子どもだらけの町にしよう。
- 15 町全体で子育てする環境を整えよう。
- 16 世界に誇れる人材を育てよう。
- 17 10代の挑戦を応援できる町にしよう。

今後の戦略会議

2度の戦略会議ではそれぞれの立場から本当にたくさんのアイデアを出して頂きました。戦略提言書では、それらのアイデアをなるべく逃さず、そのまま戦略として掲載することにこだわっています。

2回目までの戦略会議は戦略提言書作成のため、ある程度決まったメンバーで進めました。しかし、提言書は限られた時間で作られたもので、まだ完成には至っていないと考えています。もっと多くの議論を必要としていますし、同時に、関わる人も流動的であるべきと考えています。誰かのアイデアを実現するために、何をすべきかを全員で考える、そしてすぐに行動に移す。アイデアに対して「できない」と否定から入るのではなく、「どうやったらできるようになるのか」を一緒に考えていきましょう。戦略会議はあなたの新鮮なアイデアを待っています。

わたしたちの町の カタチを変えていこう。

提言
01

「"あったらいいな"にフィットする」益城町

まちの住みやすさって何だろう?たくさんの人やモノに溢れていることもその答えの一つかも知れないけれど、「ここが不便だな」「こんなのがあったらいいな」に寄り添えるようなカタチの町が、等身大の住みやすさを感じるのではないか。どうやったらわたしたちのまちが住みやすくなるか、立場を超えてみんなで話し合おう。そしてその声に、すぐにフィットできる町にしていこう。

今すぐはじめよう

- 年代問わず皆がしゃべれる場を作ろう
- これから整備する施設を中心に、益城町全体にwi-fiを整備していこう
- 150年先まで残るように、今ある資料をデジタル保存していこう
- 制約があることについて、まず「何をしたいか」というところに耳を傾けることから始めていこう
- それぞれの場所で「ここは〇〇をしていい場所」「ここで〇〇をするためにはこういう手続きが必要」というのをしっかりアピールしていこう

時間をかけて取り組もう

- まずは今ある施設を活用しながら、空港利用者や阿蘇への旅行者、ライダー・サイクリストが泊まれる宿泊施設を作っていこう
- ローカル 5G を整備していこう
- 住民が毎日行ける買い物の場所(商店街など)を作ろう
- ソーラーロードの実証に取り掛かってみよう

将来チャレンジしよう

阿蘇くまもと空港を もっと活用しよう。

「空港から魅力が飛び立つ」益城町

阿蘇くまもと空港は、わたしたちの町にある財産のひとつ。たくさんの人が行き交う、文字通りの"港"を中心としたまちづくりをしてみよう。国内だけではなく、これからは海外から熊本へ来る方も増えるはず。目指すは「わたしたちも、わたしたちの町に来る人も楽しい空港」、町の玄関である空港に来ること自体が楽しいと、その後の旅もワクワクするはずだ。

提言

02

今すぐはじめよう

- 熊本国際空港株式会社(阿蘇くまもと空港の運営会社)と積極的に話をしていこう

時間をかけて取り組もう

- 空港内に図書館を作り、益城町の歴史・文化の資料(本やDVD等)に触れてもらおう
- 空港内に益城町コンシェルジュカウンターを設置して、益城町を積極的に紹介していこう
- 空港内に宿のチェックインカウンターを設置して、気持ちよく益城町の宿に帰ってきてもらおう
- 空港施設見学ツアーや空港周辺見学ルートを整備して、空港をテーマパーク化しよう

将来チャレンジしよう

移動に困らない まちにしよう。

「フットワーク軽く動ける」益城町

わたしたちの町へ観光に来てほしい?その前に、どうやってわたしたちの町へ来て、どのように楽しい時間を過ごしてもらうかを考えることが先じゃないか。空港からも、町内だって満足に移動できるとは言えないでしょう? わたしたちと、わたしたちの町に来てくれる人の「移動」をもう一度考え直そう。

提言

03

今すぐはじめよう

- バス路線のどこが不便なのかを住民や町外の人に意見をもらおう
- サイクリングマップをつくろう
- レンタサイクルで空港から町内に下りられるようにしよう
- 空港～木山間のシャトルバスを作ろう

時間をかけて取り組もう

- コミュニティバス(町営バス)を整備しよう
- お年寄りが気軽に使えるコミュニティバス・タクシー(集落部)を整備しよう
- まずは限られた区域からシェアタクシーの実証的整備に取り掛かってみよう

将来チャレンジしよう

- 歩くことが当たり前でコミュニティで乗り合いが生まれるようにしよう

みんなで運動を 大好きになろう。

「全員がいつまでも健康な」益城町

提言
04

元気があれば何でもできる。わたしたちの生活も、まずは健康な体があってこそ。自分の体を作る運動の習慣を作って、いつまでも健康で幸せな暮らしをしよう。たくさんの運動の機会をまずは知って、それからみんなで楽しみながら、熊本、九州、いや日本一健康で、みんなから羨ましがられる町を目指そう。

今すぐはじめよう

- 益城町で開催されている運動の取組をまとめた「益城町運動ガイドブック」をつくらう
- 既存の施設をもっと使いやすくして、「体を動かす習慣」をつけていこう
- 地域・地区での運動指導を補助する人(アシスタント)を増やしていこう
- トレイルランニングの大会を開催しよう
- 地区運動会を開催したり、小学校の運動会を地区と一緒に開催したりしていこう
- 歩く(外に出る)機会を増やして人が行きかう場をつくらう
- 益城町の中のフットパス/まちあるきコースをまとめよう
- 万歩計アプリと健康ポイントを連動させて、「歩く習慣」をつけていこう

山の景色を楽しめる山歩きロード
なんかあったらいいよね!

時間をかけて取り組もう

- 新しくできる道路を便利で歩きやすい通りにしよう
- ローカル5Gを活用した「運動指導ライブ配信」など、地域・地区ごとに運動できる機会を増やしていこう
- 運動への参加費を財源とした自身への投資システム(健康貯金)をつくらう
- 健康づくりに関する活動を通じて、地域のつながりを広げていこう

将来チャレンジしよう

- 社会活動(地域)へ参加できなくなっても、運動できなくなっても、体に何らかの影響が出ても、安心在宅ネットワークが受けられる体制をつくらう

介護保険料が下がって子育て世代の手当が充実できるかも!?

わたしたちの町にある 自然を再認識しよう。

提言
05

「自然を楽しむ、自然で育てる」益城町

わたしたちの町には雄大な山、川、たくさんの生きもの…素晴らしい自然がある。わたしたちは普段の生活の中で、それに気づいていないのかも知れない。まずは自然の素晴らしさを見つけ、それを発信してみよう。そして、自然を愛する人が再びわたしたちの町に戻ってきてくれるような楽しさを見つけていこう。

今すぐはじめよう

- 町の自然に関する情報発信（広報誌、HP、SNS）をしよう
- 環境教育を実施しよう
- 町内各所で進んでいる新たな発見（地層の話、歴史の話等）をさらに掘り下げてみよう
- 町内で完成していく避難広場を活用して、災害学習キャンプを実施しよう
- 学校と連携しながら、「身近にあるけど知られていない自然」に触れる機会を作ろう
- 里地・里山・田園風景に触れる機会を作ろう
- 教育にもつなげられるような「秋津川の川遊び」を企画しよう

時間をかけて取り組もう

将来チャレンジしよう

自然を楽しむ際の拠点となるような場所がほしいね!

古き良き家を 活用しよう。

「古民家からリゾートが生まれる」益城町

提言

06

わたしたちの町には、古くから建っている素晴らしい家、「古民家」がある。まずはその古民家を使ってコミュニティの場を作ろう。そして、わたしたちの町にまた来てくれる、リピーターが生まれる価値を生み出そう。休日だけ来てもらうことも悪くないじゃないか。わたしたちの町をリゾート地にすることだって夢じゃない。

今すぐはじめよう

- 古民家ホテルやレストランへの活用をすすめよう
- 高校生・大学生によるDIYでの古民家メンテナンスに取り組もう
- 古民家についての積極的な情報発信をしよう

熊本の大学生が気軽に使える
カフェがあるといいね!

時間をかけて取り組もう

- 古民家を活用した「こだわり」や「好き」を発信するギャラリーを作ろう
- 古民家を改修し、テナントに入ってもらおう(カフェ、コワーキングスペース)
- 高校生・大学生による建築ワークショップや経営実践の場としながら、DIYでの古民家活用に取り組んでいこう
- 多言語対応に取り組んでいこう

将来チャレンジしよう

子どもも大人も 思いっきり遊べる場所を作ろう。

「自然の中で心が解放される」益城町

提言

07

わたしたちの町には公園や遊ぶ場所が少ない。昔のように家の近所で子どもが思いっきり遊ぶことはできなくなったけれど、同じように大人もいつの間にか遊ぶ心を失ってしまったのではないだろうか。だから、子どもも、大人も一緒に楽しめる「拠点」を作ろう。自然の中で心を解放して遊びを楽しめば、わたしたちの人生はもっと彩られたものになるはずだ。

今すぐはじめよう

- 子供達が伸び伸びと自然の中で楽しく遊べる環境を整えよう
- 老人会と子どもたちが一緒に焚火をする機会をつくろう
- それぞれの地区で「ここは〇〇をしていい場所」「ここで〇〇をするためにはこういう手続きが必要」というのをしっかりアピールしていこう
- 登山ルートの整備やガイド育成、登山イベント(クイズ登山、「愛を叫ぶ」イベント等)の企画を進めていこう

時間をかけて取り組もう

- 既存の資源を活用して、町と地域が一緒に管理するスケートボードパークを整備しよう

子供遊具がある、大規模な総合公園がほしい!

子どもも安全に釣りができる釣り場もあるといいね!

将来チャレンジしよう

- 秋津川河川公園を、釣り・キャンプ・焚火・アスレチックなどができる総合レジャーパークにしていこう

「映える」町を 目指そう。

「たくさんの"いいね!"がつく」益城町

提言
08

わたしたちの町は、他の人からどのように見られているだろう?地震があって大変だった町?そんなネガティブなイメージはいらない。もっと町の魅力を見つけよう、アピールしよう。今はSNSで気軽に発信できるじゃないか。サンジだって来てくれた、もっとみんなに知ってもらわないともったいない! SNSで「映える」ことを考えるのだって、イメージを変える重要な戦略だ。

今すぐはじめよう

- 「サンジ朝市」「サンジのおやつ」「サンジの周りで料理国際交流」など、サンジに寄せて様々なイベントを開催しよう
- 「サンジと肩を組める」ように、サンジ撮影アプリの開発や撮影のためのお立ち台(映え台)の設置を検討しよう
- 台湾との交流をアピールしよう
- 台湾食文化をみんなで学ぼう
- 農産物のプロモーションを考えよう(第一次産業者のニーズ調査、商品開発部会の設立、有名シェフへのアポ取り)
- 焚火作戦会議を開催しよう
- デートスポット(川沿い、津森の山からの景色)を作ろう
- SNS(YouTube, twitter, インスタグラム等)を活用して、ましきの魅力を発信しよう
- 「じもと記者」による地元の魅力発信を進めていこう
- 他分野・異業種・多世代が交流してイベントや施設運営をやろう

女子旅マップがあると
いいね!

パワースポットや大木スポット
を整理するといいかも!

観光看板も必要かな～

動画撮影歓迎!なスポットが
増えるといいね!

時間をかけて取り組もう

- サンジ直行バスを運行しよう
- 「こだわり」や「好き」「得意」を
発信するギャラリーを作ろう
- 貸し出しもある浴衣のイベントをしよう
- 子どもたちだけで遊びに行ける安全な「映え」スポットを作ろう
- 特産物を使用し、有名シェフと商品
を開発しよう
- 壁面アートを充実させよう

将来チャレンジしよう

- 自由に新しい事業ができるようにしよう
- 特産物をメインにしたカフェなどが
多く存在する町にしよう

家族で行けるオシャレな
大型家具屋が欲しいな!

とりあえず流行を フォローしてみよう。

「トレンドビジネスの」 益城町

提言
09

流行をつくる、というのはとても大変だ。わたしたちの町でいきなりそれを実現するのは難しいかも知れない。でも、流行に乗るのだったら簡単だ。別にそれでもいいじゃないか。だって流行している、ということは多くの人が関心を持っていることと同じだから。流行に乗っているうちに、いつの間にかわたしたちが最先端を走れるようになることを目指していこう。

今すぐはじめよう

- 若者ベンチャー起業を支援しよう
- チャレンジジョブの仕組みをつくらう

時間をかけて取り組もう

- チャレンジを阻害する規制があれば、緩和を検討していこう
- 子どもたちの意見を取り入れながら、既存の資源を活用したコワーキングカフェをオープンしよう

将来チャレンジしよう

グランピング施設はどうか!?

笑顔で商売できる 場所を増やそう。

「住む人/来る人/作る人/売る人でにぎわう」 益城町

提言
10

わたしたちの町には、ずっと住んでいる人も、新しく町に来た人も、働きに来ている人も、色んな人がそれぞれの時間を過ごしている。その人たちが集まって、自分たちの経験や悩みを共有できる場をつくらう。まずはみんなで笑って酒を酌み交わせばいいじゃないか。そこが真剣に話せる場になれば、色んな価値が生まれていくはずだ。

今すぐはじめよう

- 商売をやる人/やろうとする人が相談しやすい場所をつくらう
- 高校や大学等と連携しながら、農産物の栽培・加工・販売までをチャレンジビジネスとしてやれる体制を整えよう

時間をかけて取り組もう

- 代表は高齢者(経験値高い)、若者が運営でアイデアを出す会社経営の仕組みを作ろう

将来チャレンジしよう

わたしたちの農業を バージョンアップしよう。

提言

11

「農業を次世代につなげる」益城町

わたしたちの町は、農業の町。町の南側には壮大な田畑があるけれど、近頃は担い手不足で存続が難しいところも出はじめています。しかし、農業こそが私たちが未来へ受け継ぐ大事な産業ではないだろうか。やり方を工夫したり、人に来てもらったりしてこの状況を切りぬけよう。わたしたちの町で採れた美味しい食べ物こそ、次世代へ受け継ぐべき大切な宝物だ。

今すぐはじめよう

- 農家後継者を育てよう
- 益城町コミュニケーションマークを活用して、農産品のブランド化を進めよう
- 新鮮な野菜のネット通販サービスをオープンしよう(例:メロンの食べごろ配送サービス)
- 高校や大学等と連携しながら、農産物の栽培・加工・販売までをチャレンジビジネスとしてやれる体制を整えよう
- 農業のスマート化を進めていこう
- 小中学生が農業経験をできたり、農家さんの成功体験を直接聞いたりできるようにしよう
- 耕作放棄地と空家・古民家住居をセットで提供しよう

時間をかけて取り組もう

- 空港を活用して農作物を海外へ輸出しよう
- 農家の収入を安定化し、定住人口増を目指そう
- 農産物の流通方法を改革しよう
- GUIで画面から発注・受注・決済ができるシステムをつくろう
- 農業研修生と子どもの国際交流から農業後継者の育成につなげていこう

道の駅もあったらいいよね～

将来チャレンジしよう

- 起業農業地区を目指そう
- 空港・集果場へパイプラインで高速搬送。直接飛行機へ搭載。空輸する農業を目指そう

国境を感じない生活を 楽しもう。

提言
12

「交流からはじめるグローバルな」益城町

グローバルってなんだろう？英語が話せること？それだけじゃダメだ。まずは海外の人と触れ合う機会を増やし、わたしたちの町の素晴らしさを伝えていこう。そして、世界中に「MASHIKI ファン」を増やし、日々の生活の中で外国の人と一緒に暮らしていくことが「普通」と感じるような町にしよう。

今すぐはじめよう

- 外国の人に集団で来てもらうように、ホストファミリーになっていこう
- 海外の人達に益城のおいしい食材を使って「普通の料理」をふるまい、喜んでもらう
- 「サンジの周りで料理国際交流」イベントを開催しよう
- 色々な国の子どもが地元の食材を使って一緒に料理を作るイベントを開催しよう

時間をかけて取り組もう

- 農業法人と連携して、農業研修生と子どもたちの国際交流を行おう
- 外国の人達の雇用を増やそう
- 「こども会議」などの子ども達が海外の人と交流できる機会をつくろう

将来チャレンジしよう

- 国際結婚を増やそう

大人が輝いている姿を 子どもに見せよう。

提言
13

「カッコいい背中で語る」益城町

育つ側ではなく、子どもを「育てる」側も魅力的でないといひ子育てはできない。だから、まずはカッコいい大人になってみよう。そして、その背中を子どもたちに見せよう。今の大人が子どもだった頃も、カッコいい大人がたくさんいたじゃないか。学校じゃ教えてくれない「カッコいい世界」は、きっと最高の教育の場だ。

今すぐはじめよう

- おもしろい大人マップを作ろう
- 「隠れたオタク」を発見しよう
- おもしろい体験マップを作ろう
- 体験型旅行 / 人に会う旅行を作ろう
- コミュニティスクールとも連携して学校と地域のつながりを強くしよう

時間をかけて取り組もう

- 公民館や古民家などを活用して、それぞれが「こだわり」や「好き」を発信するギャラリーを作ろう
- マニアックを出せる関係性(同じ趣味の人でのコミュニティ)を作ろう
- コワーキングスペース / コワーキングカフェを作ろう
- 地域の大人が講師になる寺子屋を作ろう
- 農業の前段階(種の作り方など)を体験できる場を作ろう

将来チャレンジしよう

幸せな子どもだらけの まちにしよう。

提言
14

「一人も虐待で死なせない・苦しませない」益城町

わたしたちの町で、たくさんの子どもが育ってもらおう。わたしたちの町を将来へ繋ぐためにはとっても大事なことだけど、本当にそれだけでいいのだろうか？わたしたちはもっと先を行こう。たくさんの子どもがいて、どの子も「幸せに」育ってもらおう。一人の子どもも苦しませない。

今すぐはじめよう

- 益城町にもひとり親の団体をつくろう
- 貧困家庭の子どもほど手厚い保育を行おう
- 専門の人達から聞きながら、子どもたちの現状をみんなで直視しよう

時間をかけて取り組もう

- 多様な家庭（ひとり親家庭、ステップファミリー、養育里親・里子、特別養子縁組の親子、LGBTなど）への理解普及・啓蒙活動を行おう
- 高校以降の教育費の助成を行おう
- ひとり親でも充分暮らしていける制度をつくろう（養育費取り立て代行、「日常生活支援事業」に益城町が参加）
- 町の職員や医療・福祉・教育に関わる人全員が「オレンジリボンサポーター養成講習」「RIFCR講習」を受けて、虐待に気づく能力を高めよう
- 安定した「学びの場」をつくろう
- ひとり親に無理をさせないための制度・サービスをつくろう（例：時間単位家事手伝い等）
- ひとり親家庭にとって「日常的に困ること」をサポートできるサービスをつくろう（例：訪問歯科、訪問床屋、地域寺子屋等）

将来チャレンジしよう

町全体で子育てする 環境を整えよう。

提言
15

「ここでなら育てていける、と思える」益城町

子どもを育てることは大変だ。核家族化が進み、家族や周りのサポートが受けづらくなっている現代では、特に母親が孤立してしまうことがある。若い夫婦が無理なく子どもを育てられるためには、親だけの力では不十分だ。わたしたちの町、地域こそが、幸せな子どもを育てられる。

今すぐはじめよう

- 子供を預ける場所を増やそう
- しっかりとした性教育を実施しよう

気軽にママ友とお茶・ランチ
できる場所がほしい!

時間をかけて取り組もう

- 子育て中の父親が早く自宅へ帰れるような働き方改革を進めよう
- 保育士さん・学校教諭の給与をもっと高くしよう
- 子どもに予算を割こう
- 若い方・昔から住んでいる方がお互いに楽しめる地域にしよう
- 高齢者施設の境界をなくして、もっとオープンな場所にしよう

どの地区にも偏りなく
歯医者さんがあってほしいな!

将来チャレンジしよう

世界に誇れる人材を 育てよう。

「世界にノマドワーカーが羽ばたく」 益城町

提言
16

優秀な子どもを育てるって一体何だろう、たくさん勉強させて良い学校、良い会社に入れること?わたしたちが目指したいのはそれだけじゃない。子どもには一人ひとり"個性"という才能があるじゃないか。だから子どもたちの個性を活かす教育をしよう。そして、わたしたちの町から世界へ羽ばたいてもらおう。世界で存在感を示せるのは、学校の成績ではない、尖った個性だ。

今すぐはじめよう

- 体験型授業を増やして色々な経験をできるイベントを開催しよう
- 空港が近いので一流の選手を呼んで子供たちの体験会をしよう
- SINETトライアルに挑戦しよう
- ICTを活用して不登校の子への学習支援をもっと充実させよう

時間をかけて取り組もう

- 陸上競技場、グランメッセ、体育館などを使った一流のスポーツ選手を育てるカリキュラムがある
- リアルの交流とオンライン交流を組み合わせた海外との学習交流を実施しよう
- 大学と連携しながら、農業×ICTの実践的教育を推進しよう
- 自衛隊や空港、大学との連携で、多様な興味を持つ人材を育てよう
- フリースクールを誘致しよう

将来チャレンジしよう

- 世界に羽ばたくような人材を育てる大学・専門学校に来てもらおう
- 教育機関周辺を整備しよう(ホテル、飲食店、レジャー、スポーツ)
- もっと先のことを学びたい!という気持ちを応援できる仕組みを作ろう

10代の挑戦を 応援できる町になろう。

「地域でチャレンジを後押しする」 益城町

提言
17

失敗は成功の母、というのは使い古された言葉だけど、子どもたちは受験に追われ、特に失敗するのを恐れている世の中じゃないのか。失敗を恐れて何もしないのが一番もったいない。もっとチャレンジしたって、そして失敗したっていいじゃないか。私たちの町という「学校」で挑戦する若者をみんなで応援しよう。活力に溢れた若者は、間違いなく地域の財産になる。

今すぐはじめよう

- 中学生・高校生の居場所を作ろう
- 中高生のチャレンジを応援しよう
- それぞれの場所で「ここは〇〇をしていい場所」「ここで〇〇をするためにはこういう手続きが必要」というのをしっかりアピールしていこう
- ICTを活用して、台湾との交流×体験型学習を充実させよう

時間をかけて取り組もう

- 公民館に、子どもたちの挑戦を後押しできるような人を置こう
- 学校で学んだことをすぐに実践できる場をつくろう
- ドローンのプログラミングから実際に飛ばすところまでできる場をつくろう
- 放課後過ごすことができる、「何でもやっていい場所」をつくろう
- 商店街に挑戦できる／応援される居場所をつくろう

将来チャレンジしよう

- 子供が海外で挑戦できる環境を整えよう(空港…海外と近い益城町)